

紀元前 10 世紀シバの女王はエレサレムにエレサレムのソロモンを訪ね、2 人の間にできた子がエチオピア王国の始祖メネリク 1 世であり、彼は再びソロモンを訪れ、その際に契約の箱（モーゼの十戒を刻んだ）を盗みだし、現在もそれはエチオピアのアクスムの古い教会で大事に保管している、とエチオピア人は信じている。それらの歴史的審議はさておき、エチオピアは人類発祥の地であるといわれ、440 万年前の類人猿、380 万年前の原人遺骨（ルーシー）が発見された。

時代が下り、19 世紀末の植民化時代にアフリカがヨーロッパ列国により分割された際に、アメリカからの解放奴隷が再入植したリベリアを除き、エチオピアのみが独立を保った。そのため今のアフリカ連合のセンタービルはエチオピアの首都アジスアベバにおかれている。

一方、エチオピアには中東からモザンビークまで続く大地溝帯が貫き、多彩な景観を呈す美しい国である。そしてユリウス暦、エチオピア時間、度量衡などの独自の制度を残している。そして、テフ、ヌーク、エンセットなど神話の時代からの作物を今もって食している。

この報告の中では、エチオピアのみが食する作物とそれから作る食べ物を紹介したい。また、エチオピア発祥と言われるコーヒーについても紹介する。

ここでテフは稲に似た植物ではあるが、1000 粒重が僅か 0.3g しかない。テフは全粒を粉にして主食インジェラにして食べる。ヌークは油糧種子であり、この種子も 1000 粒重が 6~7g と小さい。しかしテフもヌークも早魃になりやすいエチオピアの土地や農牧文明の農民生活に適合しているのみならず、栄養的にきわめて優れている。エンセット（エンセーテ）は、見かけはバナナに似ているが、実は食わず、葉鞘と根茎に貯まるデンプン質の部分を食べる。これを栽培・消費する地域は南西部に限られ、それら地域では主食となる伝統的食品を製造する。

コーヒー輸出額は全輸出額の 60%以上を占め、重要な雇用提供分野で、コーヒー産業に携わる人は約 1500 万人。ことに女性に職場を提供している。エチオピアのコーヒーの飲み方は、嗜好品として飲む他、各家庭や村落で主婦や娘がコーヒーマスターとなつて行なうコーヒセレモニーが伝統的社交や儀礼の場となっている。それは日本における緑茶文化のように。

エチオピア人は誇り高く、古いものを大事にし、貧しい中でも家族や地域の人間関係を大事にする。技術指導の中で接したホームエージェント（日本の生活改善普及員に似た公務員）や大学の学生たちに対して食生活調査を行った。調査結果には過渡期にあるエチオピアの食生活の一面と伝統食へ愛着がうかがえて興味深い。



図 1 テフの藁つき穂

図 2 テフから作るクレープ状のインジェラ

図 3 アワサの家とエンセット

